

第4学年〇組 国語科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 単元名 学習したことを生かして「ごんぎつね」

2 指導の考え方

子どもの実態

本学級の子ども達は、これまでに「三つのお願い」「白いぼうし」「一つの花」の学習を通して行動がわかる文や会話文から登場人物の気持ちや人柄を読み取る学習をしてきている。その中で場面と場面を比べて読んだり、指示語の表す内容を読んだりする読み方を身につけつつある。また、あらすじをとらえる際には、主人公の行動・言動がわかる文章に線を引き、その中から文を選び、一場面ごとに書きまとめる学習をしてきた。

しかし、登場人物の気持ちや人柄を読みとる際に、読みの根拠となる叙述を指し示し、その叙述からどのように考えたかを明確にすることがまだ十分でなかったり、あらすじを書きまとめる際に線を引くところまではできても文を選ぶことがなかなかできず、挿し絵を手がかりにしながらか一緒にでないとならすじを書きまとめることができなかつたりするなどの課題もある。

教材の特質

本教材は、いつもひとりぼっちで生活していた小ぎつねのごんが、自分と同じひとりぼっちになった兵十に何とか自分の存在に気づいてほしいと願う一途な姿が描かれている物語である。

文章構成は、6つの場面で構成されていて、語り手が小さい頃に聞いた話を述べている冒頭文から始まる。そして場面を追うごとにごんの兵十への想いがつのっていく展開となっている。どの場面からもごんの言動に着目することによって、ひとりぼっちのさびしさを読み取ることができ、最終的には死をもつてしか気づいてもらえなかつたごんの切なさが子どもの心に強く訴える優れた教材である。

文章表現の特質としては、ごんの心内語が数多くあり、文末表現や指示語に着目させながらごんのさびしくて仕方がない気持ちを読み取らせるのに適した教材である。

指導にあたって

まず、既習の物語文を想起させ、題名の意味や働きを考えさせて「ごんぎつね」に出会わせる。そして、冒頭に登場する語り手の存在に気づかせ、読みのめあてを生み出させたい。

次に全文を読んで予見をまとめさせる前に、辞書を用いて難語句の意味を理解させるが、「菜種がら」「びく」「おはぐる」等、生活経験とつないで理解させにくい言葉については、教師が補説しながら理解させていく。予見をまとめる際には、まず、主人公ごんの言動に着目したあらすじを書きまとめさせる。主述の関係に気をつけて、挿し絵を手がかりにとらえたあらすじをもとに、読み手として心に残ったことを予見として書きまとめさせる。予見の話し合いの中で、心に残ったごんの人物像のずれや曖昧さから、読み確かめる必要感をもたせていく。

読み確かめでは、場面ごとにごんの気持ちや様子を読み取っていく。それぞれの場面で中心となる言葉や文をとらえさせ、文末表現や指示語の工夫に目を向けさせながら、ごんのさびしさを読み取らせていきたい。この時、自分の経験とつないで「さびしさ」について考えさせ、「ひとりぼっちのごんのさびしさ」を想像させていく。場面毎にこの活動を繰り返すことで、さびしくてたまらないごんの人物像にせまらせていきたいと考える。

読みのまとめをさせる際には、題名の意味と働きについて考え、話し合う時間を十分に取る。そして、語り手の伝えたかったことをどうとらえ、自分はどう考えるのかを語り手に発信する形で書きまとめさせたい。

3 目標

○兵十に何とか自分の存在に気づいてほしいと願うごんの一途な思いを、根拠となる叙述をもとに読み、ごんのひとりぼっちのさびしさを読み取ることができるようにする。

○文末表現や指示語に着目して、人物の気持ちの変化を読む読み方や、場面と場面をつないで読む読み方を身に付けさせる。

4 学習計画

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	
読 み の め あ て	1 / 16	1 本時のめあてを確認する。	○ 比べて読む読み方や文末表現を読む読み方、場面と場面をつなげて読む読み方を想起させる。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 題名と冒頭をつないで、読みのめあてをつくろう。 </div>		
		2 題名「ごんぎつね」から考えたことや疑問に思ったことを出し合う。 ・スイミーと同じで主人公が題名だ。 ・きつねが主人公。 ・ごんはどんなきつねだろう	○ 一つの花の学習を想起し、題名にその物語の一番大切なものが表されていることを想起させる。また、類似の題名の付け方であるスイミーを例にあげ考えを引き出す。	
		3 題名で考えたこととつないで、冒頭部分を読む。 ・「わたし」が作者（語り手）かな。 ・このお話にごんが登場するんだ。 ・「わたし」は、小さい頃にこのお話を聞いたけど、今は大人になって話を伝えている。	○ 題名で出された疑問の答えがあるか考えさせながら冒頭を音読させる。 ○ 「わたし」が語り手であることを確認する。 ○ 「小さいころ」「わたし」がいくつくらいであるか、語感をもとに考えさせることで、幼いころに聞いたお話を大人になった今も覚えているという語り手の設定に気づかせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・「ごんぎつね」は、どんなお話だろう。 ・語り手の心に残ったのは、どんなことだろう。 </div>				
予 見	2 . 3 . 4 / 16	1 前時を振り返り、本時のめあてを確認する。	○ 予見の前に、意味を調べたり、あらすじをまとめたりすることで、「お話」のおおまかな内容をとらえることを確認する	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 全文を読んで、読みのめあての答えを書こう。 </div>		
		2 全文を読み、難語句の意味を辞書で調べ、教科書の注釈や補説で知る。 (1) 全文を読む。 (2) 難語句の意味を調べる。	○ 全文を通して読む際に次の語句については、辞書を用いて理解させておく。 ・菜種がら、いせい、しわざ、あわれ、めぐむ、つぐない	
		3 ごんの言動に着目して、あらすじをまとめる。 (1) 場面を確認する。 (2) あらすじを書きまとめる。 (3) あらすじについて話し合う。	○ あらすじをまとめる際には、時や場所を表す言葉、ごんの言動、挿し絵に着目させる。	
4 読みのめあてに対する答えを書きまとめる。	○ 予見をまとめる際に、字数を限定し(20字程度)書き出しと結びを与える			

		<p>— 予想される予見の方向 —</p> <p>わたしは(ごんのひとりぼっち寂しさ・優しさ, つぐないを続ける姿・死んで初めて分かってもらえた悲しさ)が今も忘れられないほど心に残っている。</p>	
学 習 計 画	5 / 16	1 前時にまとめたことを振り返り, 本時のめあてを確認する。	○予見と予見の根拠となった文を分析しておく。
		読みのめあての答えについて話し合い, 詳しく読み確かめていく計画を立てよう。	
		2 書きまとめた予見を話し合う。	○一人ひとりの予見と, 予見の根拠となった叙述を板書に位置づけ, 重なりやずれをもとに類別しながら話し合うようにする。
		3 予見や予見の根拠となった叙述の重なりやずれをもとに, 読み確かめていく計画を立てる。	
		読み確かめること <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりぼっちでいたずらばかりするごんの気持ち。 ・いたずらを後悔するごんの気持ち。 ・自分と兵十の姿を重ね, つぐないを続けるごんの気持ち。 ・つぐないを神様のしわざと思われたごんの気持ち。 ・死んで初めて自分のしたことを兵十に分かってもらったごんの気持ち。 	
		4 中心文をとらえる。	○読み確かめの計画とつなぎながら, 場面ごとに, ごんの思いがよく分かる文にサイドラインを引き, 中心文をとらえる。
読 み 確 か め	6 ・ 7 / 16	1 本時のめあてを確認する。	
		いたずらばかりするごんの気持ちを読み確かめよう。	
		2 書き込みの視点づくりをする。 (1) 中心文を音読する。 (2) はてなをつくる。 ・なぜ「夜でも昼でも」いたずらをするのか。 ・なぜ「いたずらばかり」するのか。	○ひとりぼっちであることから, いたずらをくり返すごんの気持ちを読みとらせる。
		3 中心文に書き込みをし, 自分の考えを書きまとめる。	○「ほり散らしたり」「火をつけたり」「むしり取っていったり」の繰り返しから, なぜ何度もいたずらをするのかごんのひとりぼっちの寂しさをつないで考えさせる。
		4 書き込みをもとに話し合う。 (1) 「昼でも夜でも」「いたずらばかり」について話し合う。 (2) いたずらの内容から, ごんの気持ちを読み確かめる。 ○いも, 菜種がら, とんがらしのいたずらから, 自分に気付いてほしい気持ちを読み確かめる。 ○うなぎのいたずらから, 兵十と友だちになりたい気持ちを読み確かめる。	○「いたずらばかり」の「ばかり」や「夜でも昼でも」をはずして, 人目につきたくていたずらを繰り返すごんのひとりぼっちの寂しさを読み確かめる。 ○「ぬすつとぎつねめ。」の文末表現から, 兵十のごんへの見方を読み取らせる。(この後の呼称の変化に気付かせるために)
		5 本時に学習した読み方と読み取ったことをまとめる。	○家族も友だちもおらず, ひとりぼっちでいたずらを繰り返すごんの寂しさと, 自分の

(1) 読み確かめたことを書きまとめる。

経験をつないで、自分の経験した寂しさとの違いについて考えさせる。

こぎつねのごんは、ひとりぼっちの寂しい気持ちから、なんとかして村人たちと関わりたい、兵十とも友だちになりたいという強い思いからいたずらを繰り返した。ぼくはお兄ちゃんにかまってほしくていたずらをしたことがあるけど、ごんはぼくとは違って本当にひとりぼっちだからぼくとはさびしさが違うのではないかな。ごんはひとりぼっちで本当にさびしかったのだと思う。

(2) 読み方をまとめる。

- ・繰り返しを読む。
- ・文末表現を読む。
- ・言葉ははずして読む。

8 1 本時のめあてを確認する

いたずらを後かいするごんの気持ちを読み確かめよう。

16 2 書き込みの視点づくりをする。

(1) 中心文を音読する。

(2) はてなをつくる。

- ・「そのばん」とはいつか。
- ・「ちょっ」はどんな気持ちか。
- ・「あんないたずら」とはどんないたずらか。
- ・なぜ「しなけりゃよかった」と後悔しているのか。

○葬式の様子を見て考えるごんの様子から、自分が兵十のおっかあを死なせたと思いこみ、後悔するごんの気持ちを読みとらせる。

○指示語「その」から、うなぎのいたずらの日から十日ほどたった兵十のおっかあの葬式の日であることを読み取らせる。

○文末表現「ちがいない」から、強く思いこんでいるごんの気持ちを読み取らせる。

3 中心文に書き込みをし、自分の考えを書きまとめる。

4 書き込みをもとに話し合う。

(1) 「そのばん」「ちょ」「あんないたずら」について話し合う。

(2) うなぎのいたずらだけを後悔しているわけを、ごんの思いこみから考える。

○「あんないたずら」と1の場面のいたずらをつないで、うなぎのいたずらを後悔していることを読み取らせる。

5 本時に学習した読み方と読み取ったことをまとめる。

(1) 読み確かめたことを書きまとめる。

○思いこみでいたずらを後悔しているごんと自分の何かを後悔した経験をつないで、自分の経験と似ているところ、違うところについて考えさせる。

ごんは、うなぎのいたずらをしたせいでおっかあが死んでしまったと思いこみ、兵十をひとりぼっちにしてしまっって悪いことをしたと強く後悔している。ぼくも隣の子にちょっかいをかけて泣かしてしまっってすごく後悔したことがあるよ。でも、すごく反省したことがあるけど、ごんみたいに「ちがいない」「ちがいない」と落ち込むように反せしたことはないよ。ごんは、思いこんですっごく後悔しているのだと思います。

(2) 読み方をまとめる。

- ・指示語を読む。
- ・文末表現を読む。
- ・場面をつないで読む。

10 1 本時のめあてを確認する。

11 つぐないをするごんの気持ちを読み確かめよう。

16 2 書き込みの視点づくりをする。

- (1) 中心文を音読する。
(2) はてなをつくる。
- ・なにが「おれと同じ、」なのか。
 - ・なぜ「どっさり」なのか。
 - ・なぜ何日も続けるのか。

○自分のせいで兵十をひとりぼっちにしてしまったという後悔の気持ち、兵十を喜ばせたいという気持ちを読みとらせる。

3 中心文に書き込みをし、自分の考えを書きまとめる。

○「おれと同じ、」の読点から兵十のことを自分と同じ境遇と思いこんでいることを、文末表現「か」から、ごんが兵十の境遇を思い、後悔し考え込んでいることを読み取らせる。

4 書き込みをもとに話し合う。

- (1) 「おれと同じ」について話し合う。
(2) つぐないを繰り返すごんの気持ちを考える。

5 本時に学習した読み方と読み取ったことをまとめる。

- (1) 読み確かめたことを書きまとめる。

○自分と同じ思いを味わわせてしまったと思い、償いを繰り返すごんと自分の経験をつないで、自分の経験と似ているところ、違うところについて考えさせる。

ごんは、ひとりぼっちの寂しさを知っている自分と兵十を重ね合わせ、いたずらを強く後悔して、つぐないを繰り返した。私も以前、けんかして嫌な気持ちが分かるのに友達と悪口の言い合いになって相手に嫌な思いをさせてしまった経験があります。相手の気持ちと自分の気持ちが同じと思うとすごく相手が近い感じがします。だからごんも兵十の寂しさを心から理解できたんだと思います。

- (2) 読み方をまとめる。
- ・言葉をはずして読む。
 - ・句読点を読む。
 - ・文末表現を読む。

12 1 本時のめあてを確認する。

13 つぐないを神様のしわざだと思われ、がっかりするごんの気持ちを読み確かめよう。

16 2 書き込みの視点づくりをする。

- (1) 中心文を音読する。
(2) はてなをつくる。
- ・「こいつは」はどんなことか。
 - ・「へえ」「つまらないな。」どんな気持ちか。
 - ・「引き合わないなあ。」はどんな気持ちか。

○兵十の後をつけるごんの様子から、兵十との距離と、兵十が自分のことに気づいているかもしれないと期待しているごんの気持ちを読み取らせる。

3 中心文に書き込みをし、自分の考えを書きまとめる。

○「おれ」の繰り返しから、自分に気づいてもらっていなかったことに落胆しているごんの気持ちを読み取らせる。

4 書き込みをもとに話し合う。

- (1) 「へえ、こいつは、つまらないな。」について話し合い、兵十と加助の後を

○「こいつは」の指している内容を考えさせ、兵十が「うん」と加助が言ったことを信じていることを読み取らせる。

つけていくごんの様子を読み確かめる。
(2)「おれ」の繰り返しや、「引き合わないなあ。」の文末表現に着目してごんの気持ちを話し合う。

○「・・・おれは引き合わないなあ。」の「引き合わないなあ。」を中心語句として、文末表現に着目し、ごんのがっかりした気持ちを読み取らせる。

5 本時で学んだ読み方と読み取ったことをまとめる。
(1) 読み確かめたことを書きまとめる。

○自分がやったつぐいないを神様の仕業と思われてがっかりしている気持ちと自分の経験をつないで、自分の経験と似ているところからごんの気持ちに寄りそって考えさせる。

自分に気づいてほしいと期待していたのに、兵十に気づいてもらっていなかったことが分かり、期待が裏切られ、がっかりしているごんのひとりぼっちのさみしさを読み確かめた。ぼくも、友だちに気づいてもらえなくてがっかりしたことがあります。ぼくが、鉛筆を拾ってつくえに置いておいてあげたのに、友達は他の人にお礼を言っていました。ぼくは、一度だけだったけど、ごんは、何日もくりや松茸を持っていているのに、気づいてもらえないんだから、とてもがっかりして寂しいだろうと思いました。

(2) 読み方をまとめる。
・繰り返しを読む
・指示語を読む
・文末表現を読む

14 1 本時のめあてを確認する。

16 死んで初めて自分のしたことを兵十に分かってもらったごんの気持ちを読み確かめよう。

2 書き込みの視点作りをする。

(1) 中心文を音読する。
(2) はてなをつくる。
・なぜまたくりを持っていくのか。
・「ぐったりと」どんな様子か。
・うなずいたのはなぜか。

○前場面の「引き合わないなあ。」とつないで、引き合わないと思ってもまたくりを持って行き、どうしても兵十に気づいてほしいごんの気持ちを読み取らせる。

3 中心文に書き込みをし、自分の考えを書きまとめる。

○「ごん、おまいだったのか、いつもくりをくれたのは。」の文の倒置に気づかせ、兵十の驚きに気づかせる。

4 書き込みをもとに話し合う。

(1) なぜまたくりを持って行くのか話し合う。
(2) ぐったりと目をつぶったまもうなずいたごんの気持ちについて話し合う。

○前場面とつないで兵十のごんの呼び方の変化から、ごんへの見方の変容を読み取らせる。
○「うなずきました。」を中心語句として、前場面までの読み取りとつないで、ごんのやっと気づいてもらってうれしい気持ちを読み取らせる。

	<p>5 本時で学んだ読み方と読み取ったことをまとめる。</p> <p>(1) 読み確かめたことを書きまとめる。</p>	<p>○ 死んでからしか分かってもらえなかったごんの寂しさや悲しさを自分では経験できないこととして考えさせる。</p>
	<p>(2) 読み方をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 順序を入れかえて読む。 ・ 場面と場面をつないで読む。 ・ 呼称の変化を読む。 	
<p>読 み の ま と め</p>	<p>15 1 ごんのさびしさを読み取った読み方ををふり返る。</p> <p>16 2 題名「ごんぎつね」の意味と働きについて話し合う。</p> <p>16 3 「ごんぎつね」の学習をふり返り、心に残ったことを読み手の立場から書きまとめる。</p>	<p>○ 読みと読み方のふり返りがしやすいように、1～6 場面で読み確かめた内容と使った読み方を側面に掲示しておく。</p> <p>○ 場面6の「ごん、おまいだったのか・・・。」の叙述とつないで、題名が「ごんと兵十」や「ごん」ではなく、「ごんぎつね」となっているわけを考えさせる。</p> <p>○ 読み通しの目にもどり、題名「ごんぎつね」に込められた語り手の思いについて考え、語り手への手紙という形で自分の考えを書きまとめさせる。</p>

5 本時 (1 / 16) 読みのめあて

6 本時の目標

- 題名と冒頭を読んで考えたことや疑問に思ったことを出し合い、語り手の存在に気づかせながら読みのめあてをつくることができる。

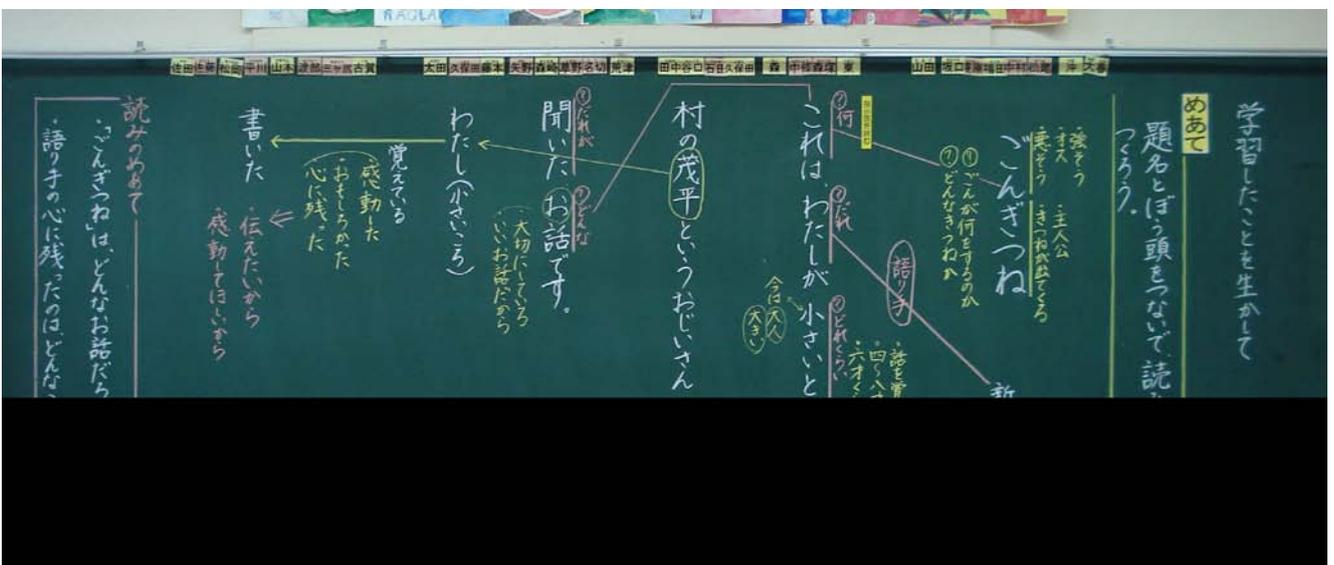
7 本時指導の考え方

本時は16時間計画の第1時間目にあたり、題名と冒頭部分を読み、そこから「どんなお話なのか」「ごんぎつねのお話の中の何が語り手のわたしの心に残ったのか」といった読みのめあてを生み出す学習を行う。題名と冒頭をつないで読みのめあてを生み出す学習は、題名が物語の主題となっていたり、冒頭に物語の5W1Hが含まれていたりするなどのことから児童が読みの見通しをもつことができる。従って文章を読む力を育む学習において重要な学習活動であると考えられる。

指導にあたっては、まず、「白いぼうし」「一つの花」の学習を想起させながら、題名のもつ役割を再確認する。そして本単元においても同様の流れで学習することを伝え本時のめあてを確認する。次に、題名を読んで思ったこと及び、疑問に思ったことを順に発表させながら物語に対する想像をふくらませていき、題名から思った疑問の答えがあるか考えさせながら冒頭部分を範読する。冒頭部分においても同様に、疑問に思ったことを配布した学習プリントに書き込み話し合わせる。「これは、わたしが…」の「これ」「わたし」が指し示す内容や「小さいとき」とはどれくらい小さいのか等の子どもが出した疑問の答えを明らかにしていく中で、読みのめあてに向け方向付けていく。またその際、「…聞いたお話です。」の「お」をはずして読ませ、「お話」と「話」とを比べることで、語り継いでいきたい大切なお話であることを印象づけたい。

そして最後に、「聞いた」「小さいとき」という叙述に着目させ、茂平はなぜ話したのか、小さいときに聞いたことをなぜ今でも覚えているのか、そして語り手のわたしはなぜ語り継いでいこうとしているのかを考えさせ、今に至っても忘れられず心に残っているお話であるということを確認する。その内容をふまえて子ども達に自分なりの読みのめあてを考えさせ、最終的な読みのめあてを生み出せるようにしていきたい。

8 板書計画



9 本時の展開

	主な学習活動	指導上の留意点
3分	1 本時のめあてを確認する。	○「白いぼうし」「一つの花」で学習した読み方を想起させながらめあてを確認する。
	題名とぼう頭をつないで、読みのめあてをつくろう。	
7分	2 題名「ごんぎつね」から考えたことや疑問に思ったことを出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・スイミーと同じで主人公が題名だ ・きつねが出てくる話 ・きつねが主人公の話 ・ごんは何をするのかな ・ごんはどんなきつねなんだろう 	○題名「ごんぎつね」を全員で読ませ、題名から思ったこと及び、疑問に思ったことを順に発表させる。 ○ごんという名前のきつねからどんなきつねを想像するか聞き、想像をふくらませる。
10分	3 題名で考えたこととつないで冒頭を読む。 ①疑問に思ったことを書き、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「これ」って何のことなんだろう ・「わたし」って誰のことかな ・「小さいときに」ってどれくらい小さいのかな ・「お話」ってどんなお話なのかな 	○題名で出された疑問の答えがあるか考えさせながら、冒頭を範読する。 ○学習プリントを配布する。 ○冒頭を読んで疑問に思ったことを発表させた後、疑問に対する答えを自分なりに考えさせ、学習プリントに書き込ませる。 ○疑問に対する答えが書けない子には、指し示す内容を線で結ぶとよいことを伝える。
12分	②疑問に対する答えや考えを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「これ」はごんぎつねのお話のこと ・「わたし」とは語り手のこと ・「小さいとき」とは、話を覚えられるくらいの年 	○わたしが語り手であることをおさえる。 ○「小さいとき」「わたし」という言葉から語り手がいくつくらいなのかを考えさせることで、幼い頃から大人になった今でも覚えているということに気づかせる。 ○発表を整理する中で、茂平はなぜ話したのか、語り手が小さいときに聞いた話をなぜ覚えているのか、そしてなぜ語り継ごうとしているのかということについて考えさせ、読みのめあてにつなげるようにする。
13分	4 読みのめあてをつくり、発表する。 ＜読みのめあての方向＞	○これまでに確認した内容をふまえて、自分なりの読みのめあてを書かせ、それぞれの発表から読みのめあてをつくる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「ごんぎつね」は、どんなお話だろう。 ・語り手の心に残ったのは、どんなことだろう。 	